

飼料用稲・飼料用米「夢あおば」の紹介

当センターでは、農業試験場と共同で飼料用稲・飼料用米の品種選定試験を行っています。平成28年度から新たに認定品種となる「夢あおば」について紹介します。



夢あおば

【品種特性】

- 早生熟期
- 乾物収量が高く、また玄米重量が多いため、
稲発酵粗飼料、飼料用米のどちらにも適する
- 穂重型で、玄米も大粒であるため食用米と
識別性がある
- 縞葉枯病に抵抗性がある
- 耐倒伏性は強（極端な多肥栽培では倒伏する
恐れがあるため、注意する）
- 穂発芽が懸念されるため、刈遅れに注意する

【試験結果】

品種名	移植日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	地上部 乾物全重量 t/10a	粗玄米重 kg/10a	倒伏 0-5
夢あおば	5/13	7/27	9/15	86.1	2.1	822.2	0
べこあおば		7/28	9/16	78.9	1.8	696.1	0
夢あおば	6/13	8/23	10/14	100.8	1.9	561.5	1.7
べこあおば		8/20	10/11	85.3	1.8	546.8	0

注) 農業試験場（宇都宮市）における試験結果 [施肥量：窒素12kg/10a]
倒伏：0（無）-5（甚）

「夢あおば」は、同じ熟期の「べこあおば」と比べ、乾物全重量および粗玄米重が多いため、稲発酵粗飼料と飼料用米の両方で利用できる兼用品種です。また、サイレージ調製する際は、品質を高めるために糊熟期～黄熟期に刈り取ることをおすすめします。

すでに「ホシアオバ」（中生）、「たちすがた」（中生）、「月の光」（中生）、「クサホナミ」（晩生）が、県の認定品種であり、今回「夢あおば」（早生）が新たに認定品種となります。これらの認定品種を栽培し、収量増加を目指しましょう。